

科目名	情報機器の操作	担当教員	白鳥 義明
実施学期	通年		
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	コンピュータを中心とした情報機器及び情報環境を理解して活用することができ、併せて教員・保育士として必要な情報リテラシーと操作技術を習得する。 【到達目標】 ・情報リテラシーを身につけ、情報の収集・評価・利用・表現について適切な方法を探ることができる。 ・Office系ソフトウェアを使って、図表付き文書の作成、データの整理・分析・表現ができる。
授業の概要	・毎回、教員・保育士として必要となる実践的な課題を挙げ、その解決・実現に必要な知識と情報処理の方法について具体的かつ多角的な説明を行い、質疑応答の後、課題解決に向けた演習を行う。

【授業計画】	
前期 1. ガイダンス 学内情報環境の理解と確認／ファイル・フォルダ・ドライブ 2. 基本操作(1) タッチメソッド／文章入力／図形によるイラスト作成(人物) 3. 基本操作(2) タッチメソッド／文章入力／図形によるイラストの作成(遊具) 4. 基本操作(3) タッチメソッド／文章入力／画面キャプチャとトリミング 5. Wordによる対外文書の作成 構成要素と作成上の礼儀／文章入力練習 6. Wordによる表組を持つ文書の作成 園だよりを例に／文章入力練習 7. イレギュラーな表組を持つ文書の作成 幅違い・高さ違いへの対処法／罫線の種類と応用 8. 保育指導案の作成(1) 月案(例示の表組を作成し、例文を格納する) 9. 保育指導案の作成(2) 日案(適切な表組を作成し、例文を入力する) 10. 保育指導案の作成(3) 遊具配置図等(指導案に沿った図の作成) 11. イベントポスターの作成 表組、図、画像の活用 12. インターネットの活用(1) セキュリティの重要性／情報発信とモラル 13. インターネットの活用(2) 情報の収集・評価・活用／著作権の尊重 14. ムービーメーカーによる動画の作成 複数画像、音声データの作成と利用 15. 前期授業のまとめ 定期試験	後期 1. Excelの活用(1) カレンダー作成／図・画像・オブジェクトの挿入 2. Excelの活用(2) 四則演算・集計関数・構成比計算／相対参照と絶対参照 3. Excelの活用(3) 名簿等の作成・管理／関数による検索／フィルタ 4. Excelの活用(4) 名簿等の更新に必要な作業／条件付き集計 5. データ分析の基礎(1) 代表値と散布度／基本統計量 6. データ分析の基礎(2) 度数分布表とヒストグラム／ピボットテーブルの活用 7. VBAによる作業の簡略化(1) ジャンケンの流れと自動化 8. VBAによる作業の簡略化(2) 成長記録の登録・分析・視覚化 9. PowerPointの活用(1) プレゼンテーションの基礎知識／スライドのデザインとレイアウト 10. PowerPointの活用(2) 簡単なアニメーション設定／お気に入りの童謡紹介(作成演習) 11. プレゼンテーション演習(1) 私が伝えたい物語(アウトラインの作成) 12. プレゼンテーション演習(2) 私が伝えたい物語(スライド・アニメーションの作成) 13. プレゼンテーション演習(3) 私が伝えたい物語(発表) 14. プレゼンテーション演習(4) 私が伝えたい物語(発表) 15. 後期授業のまとめ 定期試験
テキスト	『基礎からはじめる情報リテラシー—ポイントでマスター(Office2013対応)』著:杉本くるみ、大澤栄子 実教出版
参考文献	『2018 事例でわかる情報モラル』編:実教出版編集部 実教出版
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストや別に配布する補助教材で、各回の授業課題の解決に必要な知識と処理手順を概観しておくこと。 【事後学修】授業内容を踏まえ、テキストや補助教材を読み直し、学習内容の定着を図ること。
成績評価の方法	課題解決への積極性(30%)、提出課題(30%)、定期試験(40%)の総合評価とする。
その他・注意事項	【使用機器】PCは、指定された番号のものを使用すること。

科目名	幼児音楽	担当教員	赤津 裕子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼児期・児童期における音楽による表現活動の意味を理解し、子どもの姿のとらえ方、指導法について考える。また子どもの表現を支えるために保育者に求められる技能を習得する。さらに実際の音楽体験を通して、創り上げる喜びを感じ取る。
授業の概要	音・音楽の視点から保育者として必要な力について全般的に扱う授業である。具体的には、子どもの表現を支える音楽指導の在り方を探り、実践に必要な伴奏法・声の使い方・弾き歌いの方法を身に付ける。また、自然の音に耳を澄ませたり、音楽づくりを通して音や静寂に対する感性を磨くことをめざし、さらに子どものふるまいをとらえる目を養うなど様々な方向から幼児期・児童期の音楽活動について深めていく。

【授業計画】	
前期 1 乳幼児期・児童期の音楽による表現 2 歌と身近なモノによる表現活動 3 歌と言葉の関わり 4 歌とリズムと身体表現 5 ごっこ遊びから音楽劇へ 6 表現する子どもの姿から見えるもの 7 音楽的場の創造(指導案作成) 8 音楽的場の創造(教材研究) 9 音楽的場の創造(子どもの表現を引き出すピアノ演奏) 10 音楽的場の創造(さまざまな発声法) 11 音楽的場の創造(模擬保育の実際) 12 音楽的場の創造(省察) 13 手を使った音遊び(クラッピング等) 14 手遊びの意義と実践 15 まとめ 定期試験	後期 1 季節の歌の教材研究 2 行事・生活の歌の教材研究 3 簡易伴奏の作り方(旋律と根音) 4 簡易伴奏の作り方(旋律と和音) 5 簡易伴奏の作り方(両手伴奏) 6 さまざまな伴奏パターン 7 曲想に応じた伴奏の工夫 8 弾き歌いの発表 9 幼児の音の発見と楽器との出会い 10 音による受容と表現・伝え合いと共感 11 音探しと音作り 12 発表と省察 13 楽器による即興演奏(オルフの音楽教育) 14 子どもに受け継ぎたい日本の歌・世界の歌 15 まとめ 定期試験
テキスト	「音楽表現」(コンパクト版 保育内容シリーズ⑤)(一藝社)
参考文献	「音楽表現」(新・保育内容シリーズ5)(一藝社) 「音楽を学ぶということ これから音楽を教える・学ぶ人のために」(教育芸術社) 「おんがくのしくみ 歌って動いてつくってわかる音楽理論」(教区芸術社) 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】事前に出された演奏課題、発表課題については各自しっかり練習して臨むこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着をはかること。
成績評価の方法	定期試験(60%)、授業の最後に提出する小レポート(20%)、模擬保育の発表(10%) 演奏発表(10%)
その他・注意事項	授業の中ではグループやクラス全体で作品を創る活動も含まれるので、積極的に参加し、協力して創り上げる姿勢をもつこと

科目名	体育	担当教員	高橋 系子(A・C)
実施学期	通年		稲葉 孝之 (B)
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の運動遊び、身体活動を知る。 ・乳幼児期の発達に即した運動あそびを考え、援助できる指導技術を学び、指導案を立てたり、保育(模擬保育)することができる。 ・自身の体力向上や健康管理の方法を学び、具体的な対策がたてられる。 ・協力しあって創意工夫し、あそびをうみだすことができる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・準備運動として体ほぐしの運動やコーディネーショントレーニングなどは随時取り入れる。 ・様々な形態の運動に触れて、楽しさを見出し、それを子どもや他人に伝えられるように意識づけたい。 ・安全管理について意識をもつ ・体育科教育法に基づいた四大教師行動をもとに、運動あそびの進め方のノウハウについて実践を通して学ぶ。

【授業計画】	
前期 1.オリエンテーション（前期授業のねらいの理解、注意事項など）・安全管理 リスクとハザード 2.コンディショニング（身体の観察と実践） 3.ボール遊び（特性や効果を知り、遊びからゲームへの発展を考える） 4.バレーボール ルールの理解と共有 5.バレーボール 基礎技能の習得 簡易ゲーム チームづくり 6.バレーボール 基礎技能の習得 簡易ゲーム チーム別の練習 7.バレーボール チーム別 技術分析と練習方法について考える。 8.バレーボール 試合 リーグ戦 運営方法の習得 9.水遊びと事故 プールの基準（講義） 10.模擬授業の準備。留意点。グループ分け。指導案作成時の留意点 11.模擬授業(1) 模擬授業の実践 流れについて考える 12.模擬授業(2) 活動をすすめるにあたっての留意点（準備や環境整備） 13.模擬授業(3) 指導案との対応 14.模擬授業(4) 模擬授業全体を通し視点をもち観察する。 15.模擬授業の反省とまとめ グループ別意見交換。 定期試験	後期 1.後期のねらいと授業の流れ・内容の説明 2.実習にむけ、自分の担当年齢にふさわしい運動遊びを考える。 3.鬼遊び 特徴と効果 種類 普通の鬼ごっこ ふやし型の鬼ごっこ 4.鬼遊び 応用型 ボールと複合型(パス鬼) スポーツ鬼ごっこ 5.バスケット型の運動あそび 6.サッカー型の運動遊び 7.ドッチボール 基本形と応用形 8.野球型の運動遊び 9.リズム型のダンス 手具を使ったダンス 振付 前半 10.手具を使ったダンス 振付 後半 発表 11.ダンス 表現主体のダンスの特徴を知る 12.ダンス 表現する題材 テーマを探す 13.ダンス 決めたテーマに従って動きを創ってみる 14.ダンス 発表 15.自分たちの映像をみでの反省とまとめ。グループ別の意見交換 定期試験
テキスト	「保育と幼児期の運動あそび」 岩崎洋子編 萌文書林 プリント
参考文献	「幼児体育」前橋明著 大学教育出版 「幼児期運動指針」文部科学省 「体育科教育学入門」高橋健夫他著 大修館書店
授業時間外における学習方法	・日常の中で気が付いた時には、意図をもって自身の身体を動かすことが望ましい。
成績評価の方法	・授業への参加意欲や態度 ・課題や提出物の期限厳守 ・友人との協力関係 ・技術到達度 ・意見交換や他グループの動きの観察時及び記述に視点とねらいをもち出来ているか。
その他・注意事項	・動きやすい服装で受講。(日常の服・靴のままでは受講できない。見学。) ・スマートフォンを服のポケットの中に入れてそのまま実技に参加は不可。貴重品箱の中に入れる。 ・髪の毛が肩を超える学生は必ず束ねる。爪は切る。アクセサリー類ははずす。 以上が守られない場合は見学扱い。(見学3回で欠席1回とする)

科目名	生活科教育	担当教員	中村 香津美(A)
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の設置の背景や幼児教育との関連について理解する。 生活科の目標・内容等を把握し、教科としての特色を理解する。
授業の概要	<p>小学校生活科の目標・内容。指導計画についての理解を図るとともに、具体的な生活科の授業の展開、子どもたちの活動や教師の役割等について考え、生活科の特色をとらえる。また、生活科設置の背景や、幼稚園・保育所・こども園の教育との関連について考える。</p>

【授業計画】	
前期 1 生活科誕生の背景とその経緯 (生活科はどのようにして成立したか) 2 生活科の目標 3 生活科の内容の全体的構成の理解 4 生活科の具体的内容の理解 [学校生活・家庭] 5 生活科の具体的内容の理解 [地域・公共] 6 生活科の具体的内容の理解 [身近な自然とのかかわり] 7 生活科の具体的内容の理解[動物、人とかかわり] 8 生活科の授業の構成(1) [自分史作り] 9 生活科の授業の構成(2) [自分史作り完成] 10 生活科の授業の構成(3) [動くおもちゃの製作] 11 生活科の指導計画と学習指導 12 生活を促す環境の設定 13 生活科における 保・幼・こ・小の連携の活動を考える指導案作り 14 小学校の生活科の学習と幼児教育との関連 15 まとめ 定期試験	後期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15
テキスト	「小学校学習指導要領解説 生活編」「幼稚園教育要領」 「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 必要なプリント、資料は適宜配布する
参考文献	「小学校学習指導要領」文部科学省「小学校生活科教科書 新しい生活 上、下」東京書籍 「小学校生活科教科書 せいかつ 上、下」教育出版 「就学前教育カリキュラム」改訂版 東京都教育委員会
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配布資料を読み直し、学習内容の定着をはかること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に振り返り小レポート提出(30%)、提出物・発表(20%)
その他・注意事項	共に学ぶ者同士のかかわり合いを生かし、グループ活動では、協力して目的を達成すること。意欲をもって取り組む姿勢を保持することも評価の対象とする。提出物は期限厳守。

科目名	生活科教育	担当教員	井出 政廣(B)
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	{テーマ} 生活科は、体験を通して学ぶ教科であり、幼保小の接続やスタートカリキュラムの中心教科として重要であることを知る。 「到達目標」 生活科教育の目標・内容・指導計画・指導方法等について理解を図るとともに、具体的な生活科の授業展開、学習活動や教師のはたらきについて考え、生活科の特色が分かる。
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> 生活科の目標や内容、学習指導や評価等について講義を通してワークシートにまとめていき生活科の特色及び幼児教育との関連を知る。 実際に町探検を行うことを通して生活科マップ作りを体験する。 実際におもちゃ作りを通して、児童がもの作りをするときの課題等を体得する。 自分史づくりを通して、内容9のねらいを理解し、自らの生き方を振り返ることを通して自分自身の良さに気付く。

【授業計画】	
前期	後期
1 生活科の誕生と変遷をまとめる。(テキスト第1章)	1
2 幼児教育との接続・連携 (映像を通して生活科と幼児教育との接続を考える)	2
3 生活科の目標と内容構成を理解する(テキスト代2章)	3
4 生活科の内容1～4の内容をテキストを通して理解する (テキスト第3章内容1～4)	4
5 生活科の内容1～4をまとめ、町探検をする	5
6 町探検した資料から生活科マップを作り、話し合いをする	6
7 生活科の内容5の内容をまとめる(テキスト第3章内容5)	7
8 生活科の内容6の内容をまとめる(テキスト第3章内容6)	8
9 生活科の内容6の演習として動くおもちゃを作る	9
10 生活科の内容7の内容をまとめる(テキスト第3章内容7)	10
11 生活科の内容8・9の内容をまとめる(テキスト第3章内容8・9)	11
12 生活科の内容9の演習として自分史を作る	12
13 生活科の指導計画、学習指導・評価方法を知る(テキスト第4・5章)	13
14 学習指導案作りを通して学習指導の進め方を考える	14
15 生活科教育のまとめをする	15
定期試験	

テキスト	「小学校学習指導要領解説 生活編」 文部科学省著 日本文教出版
参考文献	「新訂 生活科教育の理論と方法」 中野重人著 東洋館出版社 「幼稚園 教育要領解説」 文部科学省著 チャイルド社 「小学校新学習指導要領の授業 生活科実践事例集」 池野悟編・著 小学館 「スタートカリキュラムのすべて」 木村吉彦監修 仙台市教育委員会編 ぎょうせい
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストの中で授業内容に該当する部分を読み、自分なりに考えをまとめていく。授業に必要なものを準備していく。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、ワークシートやテキストを読み直し、学習内容の定着を図る。
成績評価の方法	定期試験が70%、授業中の中で提出するレポートや作品等が30%の割合で総合的に評価する。
その他・注意事項	授業に意欲的・積極的に参加し一回一回の振り返りを大切に、学習内容を確かなものにする。

科目名	生活科教育	担当教員	土屋 康子(C)
実施学期	前期		
授業形態	講義	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<p>〈テーマ〉 生活科の目標・内容・指導計画・指導方法、生活科の特色、幼保小の連携</p> <p>〈到達目標〉 ・生活科の目標・内容等を把握し、教科としての特色を理解する。 ・生活科の設置とその背景及び幼児教育との関連について理解する。</p>
授業の概要	<p>「小学校生活科が、どのような教科なのか」をテーマに、教科の目標・内容・指導計画・指導方法等についての理解を深められるように展開する。 そのために具体的な生活科の授業展開、学習活動、教師の役割について考えをまとめたり、グループ討議をしたりして、授業に積極的に参加するよう進める。 幼児教育と小学校低学年の学びの連続性や接続について理解できるように制作も位置付ける。</p>

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション・生活科の誕生	1
2 幼児教育との接続・連携	2
3 生活科の目標と内容構成	3
4 生活科の内容(第3章 内容1)	4
5 生活科の内容(内容1の演習〈生活科マップづくり〉)	5
6 生活科の内容(第3章 内容2・3・4)	6
7 生活科の内容(第3章 内容5)	7
8 生活科の内容(第3章 内容6)	8
9 生活科の内容(内容6の演習〈動くおもちゃづくり〉)	9
10 生活科の内容(第3章 内容7)	10
11 生活科の内容(第3章 内容8・9)	11
12 生活科の内容(内容9の演習〈自分史づくり〉)	12
13 生活科の指導計画と学習指導・評価	13
14 学習指導の進め方(学習指導案を通して)	14
15 まとめ	15
定期試験	

テキスト	「小学校学習指導要領解説 生活編」(文部科学省)、生活科教科書
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着を図ること。
成績評価の方法	定期試験50%、授業参加意欲・態度・課題提出50% なお、授業の振り返りレポートも評価の対象とする。
その他・注意事項	授業に意欲的・積極的に参加し、一回一回の振り返りを大切にし、内容を確かなものとする。

科目名	家庭支援論	担当教員	中野 裕美子
実施学期	後期		
授業形態	講義	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	家族・家庭をめぐる現代の状況を把握して子育てを社会的に支援する方法を考察する。到達目標は保育士(者)として子育てにどのように関わっていけばよいのか自分なりの意見を持てるようになることである。
授業の概要	家族・家庭を社会的に見る視点を身に付けるために①現代日本の社会状況を把握すること。②子育てに関する様々な考え方を学ぶ。③様々な異なった家族・家庭に対する社会的に支援する方法を考察する。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 「イントロダクション」と子育てと家族・家庭(p.7-8)
2	2 家族・家庭の動向と現状 (p. 11-17)
3	3 子育て家庭を取り巻く社会環境の変化 (p.26-36)
4	4 子育て意識の変化 (p.37-49)
5	5 子育て家庭を支援する制度 (p.51-68)
6	6 子育て家庭支援の政策動向 (p.69-78)
7	7 まとめと復習(1)
8	8 子育て家庭支援の目的 (p.79-95)
9	9 援助の実際(p.96-104)
10	10 障害のある子どもを持つ家族への支援 (p.109-117)
11	11 乳幼児の虐待予防と親への対応 (p.118-125)
12	12 ひとり親家庭への支援 (p.126-129)
13	13 日本で子育てをする異文化の家族への支援 (p.130-132)
14	14 世界の子育て(p.135-164)
15	15 まとめと復習(2)
	定期試験
テキスト	「実践 家庭支援論 第3版」松本園子ほか著 ななみ書房
参考文献	新聞記事のコピーやHPの記事を授業中に配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】教科書をあらかじめ読んでわからない言葉は調べてから授業に参加する。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、自分なりの考えをまとめておくこと。
成績評価の方法	小テストを2回行いその平均点(90%)と受講態度(10%)で評価します。
その他・注意事項	

科目名	社会的養護内容	担当教員	石塚 泉
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	子どもの中でも、特に社会的に弱い立場の子どもたちの「生命」と「発達」の保障が社会的にどのような仕組みでなされているのが理解し、すべての子どもに発達力があり、生存・発達の権利があり、その権利が行使できるようにするためにはどのような援助をすることが出来るかを発見し、保育士としての使命感や喜びを持つようになること。
授業の概要	「社会的養護内容講義ノート」の空欄を埋めながら講義を進める。 また、ノートの中にある設問にひとり一人が主体的に回答し、発表し、問題意識を共有していく。 そしてそのことにより保育士としての専門性資質を高めていく。

【授業計画】	
前期 1 児童の権利を擁護するために必要なこと1 (P.2) ・講義オリエンテーション・児童の権利・子どもの最善の利益 2 児童の権利を擁護するために必要なこと2 (P.4) ・子どもの最善の利益・エンパワメントとアドボカシー 3 児童の権利を擁護するために必要なこと3 (P.6) ・生存と発達の保障 4 児童の権利を擁護するために必要なこと4 (P.8-10) ・子どもの発達保障・重度心身障害児の発達保障 5 子どもの権利を守る仕組み (P.12-16) ・第三者評価・子どもの権利ノート 6 児童の権利擁護における保育士のあり方 (P.16-18) ・保育士に求められる資質と倫理 7 児童福祉施設の種類・施設における支援と保育士 (P.20-22) ・児童福祉施設の種類・施設における支援と保育士 8 児童心理治療施設の実践 (P.32) ・DVDうちは一人じゃない ・ノート提出 9 児童福祉施設1 (P.24-26) ・乳児院・児童自立支援施設 10 児童福祉施設2 (P.28-30) ・知的障害児施設・里親 11 保育士の専門性1 (P. 32) ・親子関係の調整 12 保育士の専門性 (P.32) ・親子関係の調整 13 ソーシャルワーカーの技術と応用 (P.36) ・バイステックの原則 14 親子関係を考える ・DVD里親について ・ノート提出 15 まとめ 定期試験	後期
テキスト	社会的養護内容講義ノート 石塚 泉著 白鷗社
参考文献	保育小六法 ミネルヴァ書房
授業時間外における学習方法	ノートの空欄を自分で考えながら指定の期日までに課題として埋めていく
成績評価の方法	課題の完成度(20%) 定期試験(80%)
その他・注意事項	常に保育者としてあるべき姿を探究し、その姿勢で講義に臨む

科目名	健康指導法	担当教員	中村 香津美
実施学期	通年	実務経験	○
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	乳幼児期の子どもたちの心と体の健康は相互に密接な関連をもっている。人やものなど多様なかかわりの中で、のびのびと体を動かして遊ぶことにより、諸機能の発達が促される。子どもの健康づくりに必要な基本的知識や技能を習得する。領域「健康」の指導法を学ぶことで、保育の実践者として保育者自信も健康な生活を実践し、手本を示し、子どもの健康や発育発達に関心と理解、見識をもつ。幼稚園教育要領「健康」の内容について理解する。乳幼児期の子どもの体の特性に関して理解する。健康で安全な生活を送るために必要な知識や指導法に関する理解を深め、実践に生かせるようにする。
授業の概要	領域「健康」とは何かを理論的に学ぶ。領域「健康」の10の内容や「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」について事例や演習を通して保育者の役割について統合的に学習する。保育者としての専門性を高める。個人やグループで検討する。

【授業計画】	
前期 1 子どもの育ちと領域「健康」 (健康とは・健康な子どもとは) 2 子どもの身体の発達 (子どもの体は大人のミニチュアではない) 3 子どもと運動能力と動きの発達 (乳幼児期の運動発達の特徴) 4 子どもの心の発達(情緒の表出を大切にしよう) 5 領域「健康」ねらい 6 領域「健康」内容 7 領域「健康」内容の取扱い 8 保育の実際 0歳児 (事例ー0歳児の心と体の発達を考える) 9 保育の実際 1・2歳児 (事例ー1・2歳児の心と体の発達を考える) 10 保育の実際 3歳児 (事例ー3歳児の心と体の発達を考える) 11 保育の実際 4歳児 (事例ー4歳児の心と体の発達を考える) 12 保育の実際 5歳児 (事例ー5歳児の心と体の発達を考える) 13 領域「環境」と保育者の役割 14 保育所保育指針 3歳以上児の保育に関する健康ねらい及び内容 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 健康 ねらい及び内容 15 まとめ 定期試験	後期 1 領域「健康」の具体的内容 (遊びと健康・運動) 2 基本的生活習慣(1) (食事・排泄・睡眠・着脱・清潔・挨拶) 3 基本的生活習慣(2) (保育者のかかわり) 4 基本的生活習慣(3) (グループ討議) 5 基本的生活習慣(4) (グループ発表) 6 子どもに多い病気と怪我 (健康・安全についての保育者の構え) 7 乳幼児期の運動遊び(1) (乳幼児期をとりまく社会の現状と課題) 8 乳幼児期の運動遊び(2)(乳幼児期における運動の意義) 9 乳幼児期の運動遊び(3)(グループ討議一体操を考える) 10 乳幼児期の運動遊び(4)(体操発表ーグループ発表) 11 子どもの健康と安全教育 12 「健康」と保育所、幼稚園、こども園、小学校との連携(1) (交流の意義と活動を考える) 13 「健康」と保育所、幼稚園、こども園、小学校との連携(1) (指導案の悪性) 14 「健康」の現代社会における今日的課題 15 まとめ 定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 必要なプリント、資料は適宜配布する
参考文献	子どもから学ぶ保育活動健康 玉井美知子監修 (学事出版) 子どもを見る目が広がる保育事例集 高梨瑠子、塚本美知子編著 (東洋館出版社)
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配布資料を読み直し、学習内容の定着をはかること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に振り返り小レポート提出(30%)、提出物・発表(20%)
その他・注意事項	共に学ぶ者同士のかかわり合いを生かし、グループ活動では、協力して目的を達成すること。 意欲をもって取り組む姿勢を保持することも評価の対象とする。提出物は期限厳守。

科目名	人間関係指導法	担当教員	中村 香津美
実施学期	通年	実務経験	○
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「人間関係」は、幼稚園、保育所、こども園における生活全体を通しての指導により、幼児に自立心と人とのかかわる力を養うことをねらいとしている。幼児の「人とのかかわる力」は、保育者との信頼関係を基盤として育つ。そこで、保育者として人とのかかわることの意味を捉え保育者自信がかわりを通して喜びを持つとともに、幼児に対する援助の在り方を学習する。幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について、幼児の姿と保育実践とを関連させて理解を深める。その上で、幼児の発達にふさわしい主体的・対話的で深い学びを実現する保育を具体的に構想し実践する方法を身に付ける。
授業の概要	領域「人間関係」の13の内容について、事例を通して、幼児のその時の思いや、保育者としてのかかわり方を個人やグループで検討する。他領域との関連づけた活動えお考え、望ましいかわり合いの場を設定する。

【授業計画】	
前期 1 教科のねらい、授業の進め方、自己紹介 2 人間関係について考えよう。 領域「人間関係」のねらい 3 人とかかわりが育つ道筋(0歳から1, 2歳) 4 人とかかわりが育つ道筋(3歳) 5 人とかかわりが育つ道筋(4・5歳) 6 遊びにおけるいざこざ (事例－けんか・自己主張・仲間外れ) 7 遊びにおけるいざこざ (事例－葛藤やつまづきの体験) 8 保育者の子どもを見る目を育てよう (友達とかかわれない子・型はめにならないように) 9 保育者の子どもを見る目を育てよう (子ども同士のかかわり－お店屋さんごっこについての話し合い) 10 保育者の子どもを見る目を育てよう (グループ活動－お店屋さんごっこへの取り組み・教材製作) 11 保育者の子どもを見る目を育てよう (グループ活動－お店屋さんごっこを通して) 12 遊びにおけるいざこざ (事例－保育者としての対応・対大人) 13 保育者と子どもを見る目を育てよう 14 保育者に求められる援助 (保育者かわりと援助) 15 事例から学んだことのまとめ 定期試験	後期 1 3歳児の遊びと人間関係 (3歳児の人間関係の育ちと保育内容) 2 4歳児の遊びと人間関係 (4歳児の人間関係の育ちと保育内容) 3 5歳児の遊びと人間関係 (5歳児の人間関係の育ちと保育内容) 4 人と人とかかわりを育てる。異年齢交流・縦割り保育 (異年齢交流の意義と課題) 5 人と人とかかわりを育てる。高齢者とかかわり (高齢者から学ぶこと、世代間交流の意義と課題) 6 保護者とかかわり (なぜ、保護者と良好な関係を築くことが大切なのか) 7 園と保護者とかかわり (園と保護者、同じ願いで連携する) 8 保護者と保育者の連携 (保護者との連携で配慮すべき点) 9 他領域との関連 (他の領域の基礎となる人間関係) 10 他領域との関連 (領域「健康」との関連) 11 他領域との関連 (領域「環境」との関連) 12 他領域との関連 (領域「言葉」との関連) 13 他領域との関連 (領域「表現」との関連) 14 他領域との関連 (事例を様々な領域から読み取る) 15 領域「人間関係」指導法を学んだことのまとめ 定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 必要なプリント、資料は適宜配布する
参考文献	領域人間関係 田宮緑著 (萌文書林) 保育内容人間関係 酒井幸子編調 (萌文書林) 子どもを見る目が広がる保育事例集 高梨瑠子、塚本美知子編著 (東洋館出版社)
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち、授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキスト、配布資料を読み直し、学習内容の定着をはかること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、毎回の授業の最後に振り返り小レポート提出(30%)、提出物・発表(20%)
その他・注意事項	共に学ぶ者同士のかかわり合いを生かし、グループ活動では、協力して目的を達成すること。意欲をもって取り組む姿勢を保持することも評価の対象とする。提出物は期限厳守。

科目名	環境指導法	担当教員	小川 貴代子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	子どもの思考力の芽生えを大切に、子どもの主体性を育む「環境」のあり方を理解するとともに、保育環境の中で保育者が果たすべき役割について学習する。 また、領域「環境」と、他の領域との関係性を理解し、乳幼児期の子どもの発達を掴み、子どもたちのより確かな発達を支える為の「環境」のあり方を生活やあそびをとおして考察する。
授業の概要	現代社会の子どもを取り巻く環境を踏まえ、保育における今日的課題と、領域「環境」のねらいと内容を理解し、子どもたちのより確かな発達を支える為の「環境」のあり方を考察する。参考資料だけでなく、グループ活動や意見交換なども積極的に行い、領域「環境」についての理解を深める。また、製作や保育教材などから、子どもの発達についても理解を深め、環境の重要性を認識し、実際に保育環境を構成できる力を育成していく。

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション・「環境」基礎知識 2 保育の基本と保育内容「環境」(ねらい、内容について) 3 領域「環境」のねらい、内容の展開の実際①(園内環境) (園内で行われる幼児の遊びや活動の事例から) 4 領域「環境」のねらい、内容の展開の実際①(園外環境) (園外で行われる身近な施設や情報にかかわる活動の事例から) 5 身近な自然と子ども①(事例の考察) 6 身近な自然と子ども②(身近な生き物の飼い方) 7 子どもの発達と環境 (乳幼児期にふさわしい環境と環境構成について) 8 身のまわりの物に愛着をもつ保育の実際① (指導計画の立案、素材の収集) 9 身のまわりの物に愛着をもつ保育の実際② (製作、模擬保育、振り返り) 10 子どもにとっての身近な文化①(生活と遊びの構想) 11 子どもにとっての身近な文化②(園だよりの作成) 12 子どもにとっての身近な文化③(まとめ) 13 栽培活動①(野菜について調べ学習) 14 栽培活動②(野菜について調べ学習・発表) 15 まとめ 定期試験	後期 1 領域「環境」と保育の実際 2 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際① (ネイチャーゲーム) 3 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際② (ネイチャーゲーム) 4 自然に親しみ、植物に触れる保育の実際③ (芝生人形の製作) 5 自然を取り入れた遊びの教材研究① (風を利用した遊び) 6 自然を取り入れた遊びの教材研究② (木の実や木の葉を使用した遊具製作) 7 身近なもの子ども(小麦粉粘土でお話づくり) (情報機器及び教材の活用法について) 8 領域「環境」と小学校以降の教科等のつながり① (数量・図形等に関わる保育の実際) 9 領域「環境」と小学校以降の教科等のつながり② (標識・文字等に関わる保育の実際) 10 科学を体感する遊びの教材研究①(モビールづくり) 11 科学を体感する遊びの教材研究② (磁石を使った遊びの教材研究) 12 「いのち」に関する絵本の考察 13 「いのち」に関する絵本の読み聞かせ発表 14 保育内容「環境」の課題と展望 (ESD、ユニバーサルデザイン・インクルーシブ保育) 15 まとめ 定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 授業中に適宜資料を配布する。
参考文献	「体験する調べる考える 領域「環境」」田宮 縁 著 株式会社萌文書林 「保育内容「環境」あなたならどうしますか？」酒井幸子 著 株式会社萌文書林 「エピソードから楽しく学ぼう 環境指導法」佐々木由美子 編著 株式会社 創成社
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業内容を踏まえ、事前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園・保育要領」を読んでおくこと。 【事後学修】 授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し、課題を行うこと。
成績評価の方法	定期試験(40%)、レポート・教材の提出(40%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	授業では聴くことだけでなく、学生間の意見交換や考察し合う時間も大切な学びになりますので、積極的な姿勢で授業に参加し、学びを深める。

科目名	言葉指導法	担当教員	岸本 修二
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<p>幼児の言葉の発達を理解し、事例に即して援助の在り方を学び、実践に生かす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中の領域「言葉」のねらいと内容を理解することができる。 ・乳幼児の言葉の発達について事例を通して理解することができる。 ・生活・遊びの中で言葉を獲得させる計画的な環境構成と援助の仕方を理解することができる。 ・幼児のが絵本や昔話などに親しむ事例について援助の仕方を考え、)実際にやってみることができる。
授業の概要	<p>学習の課題にそって資料をもとに教師が説明し、事例を中心に考え、話し合い、実習の経験を振り返りレポートにまとめる。指導計画や文化財について理解を深め、実践に役立てるようにする。</p>

【授業計画】	
<p>前期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 人間にとって言葉のもつ意義と働き (言葉の特性と機能、子育ての問題点) 2 乳幼児の言葉の力を育てる保育の考え方 (保育の基本と領域「言葉」) 3 「総則」と領域「言葉」のねらいと考え方 (教育要領、保育指針、教育・保育要領) 4 領域「言葉」の内容 (幼稚園、保育所、認定こども園) 5 0～2歳児の言葉の発達と特徴 6 乳幼児の言葉の使い方の事例 (身体が語る言葉、コミュニケーションなど) 7 0歳児1歳児の言葉の事例と援助の仕方 (事例をもとに話し合い、まとめる) 8 1歳児2歳児の言葉の事例と援助の仕方 (事例をもとに話し合い、まとめる) 9 3～5歳児の言葉の発達の特徴 10 3～5歳児の言葉の事例と援助の仕方 (事例をもとに話し合い、まとめる) 11 言葉の発達に問題をもつ子の保育の在り方 (障害児、外国籍の子への対応) 12 乳幼児の言葉の発達過程と援助の在り方のまとめ 13 言葉の発達と援助の在り方のレポート作成 (実習の経験と授業で学んだことを結び付ける) 14 領域「言葉」と小学校教育との接続 (絵本を読むこと、文字指導) 15 まとめ(保育の知識と事例について) <p>定期試験</p>	<p>後期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 園生活の中での言葉による伝え合い (園での一日の生活と言葉) 2 保育課程と領域「言葉」の指導計画その1 (「全体の計画」、保育課程の例) 3 領域「言葉」の指導計画その2 (保育課程と年間指導計画、0・1歳児の計画) 4 領域「言葉」の指導計画その3 (3歳児の年間指導計画、月や週の計画) 5 領域「言葉」の指導計画その4 (5歳児の年間指導計画と週案、異年齢保育の計画) 6 幼児とお話の世界その1 (絵本、昔話、童話) 7 幼児とお話の世界その2 (紙芝居、ストーリーテリングなどの例) 8 幼児とお話の世界その3 (劇遊び、パネルシアター、人形劇の例) 9 子供と絵本その1 (赤ちゃん絵本の事例、絵本紹介と読み聞かせ) 10 子供と絵本その2 (絵本から発展した保育活動の事例、絵本紹介) 11 言葉遊びの文化(言葉遊びの種類) 12 言葉遊びの実際(保育の中での言葉遊びの事例) 13 言葉の発達に関する家庭や関係機関との連携 (言葉指導に関する問題点) 14 保育者としての言葉の使い方 (敬語、正しい言葉遣い) 15 まとめ(言葉指導の知識、事例の分析) <p>定期試験</p>
テキスト	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領 教材は、毎回印刷して配布する。
参考文献	『保育内容「言葉」』(ミネルヴァ書房)、『言葉とふれあい、言葉で育つ』(東洋館出版社) 『保育者と学生・親のための乳児の絵本・保育課題絵本ガイド』(ミネルヴァ書房) 『保育課程に基づく指導計画その実践・評価』(ミネルヴァ書房)、『こどもとことば』(岩波新書)
授業時間外における学習方法	29年版の教育要領、保育指針などは何度も読み込んで専門知識と考え方を理解すること。
成績評価の方法	真剣な態度、基礎的な知識理解、実践への工夫を授業40%、試験60%で総合的に評価する。
その他・注意事項	資料等を整理するノート、ファイルを用意すること。

科目名	表現指導法	担当教員	清水 道代
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	領域「表現」は、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い創造性を豊かにすることを目指すものである。本授業の到達目標は以下の3点である。 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容を理解する。 2) 乳児保育における「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものと関わり感性が育つ」視点と3歳以上児における領域「表現」の視点から子どもの経験していることを捉えるとともに、保育における留意、配慮すべき事項を理解する。 3) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
授業の概要	保育内容の各領域を総合的に捉え、また、表現活動を中心に乳幼児の実態に応じた生活や遊びを総合的に捉えた保育内容の展開や指導法を学ぶ。その際、身体の動きや五感、様々な素材や色、形、質感など、表現のツールを用いて表現活動の特徴や面白さを確認し、応用や発展を考え、総合的な表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身に付ける。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション(保育内容「表現」とは何か)	1 乳幼児期の発達と表現活動
2 領域「表現」のねらいと内容	2 自然環境と子どもたちの表現
3 内容(1)について (具体的な場面を通して)	3 表現する楽しさを味わう(かいたりつくったりする活動)
4 内容(2)について (環境整備、教材準備のあり方)	4 表現演習 (身近な素材を使った表現活動)
5 内容(3)について (感動の共有、表現の受け止め方)	5 身体的な表現行為(からだか語る・からだで語る)
6 内容(4)(5)について (身近にある素材を仲立ちに)	6 表現する楽しさを味わう①(演じる活動を通して)
7 内容(6)について (音楽環境の整え方について)	7 表現する楽しさを味わう②(リズムにかかわる活動を通して)
8 内容(7)について (素材をいかしたものづくり、遊びの充実)	8 総合的な表現について(保育実践をてがかりに)
9 豊かな表現を生み出す環境(身近な自然と季節の行事)	9 総合的な表現について(友だちと交し合う表現)
10 内容(8)について (表現遊び、教材の取り上げ方)	10 教材の取り上げ方と子どもの表現(発表会の事例から)
11 表現する楽しさを味わう(総合的な表現とごっこ遊び)	11 教材づくりと子どもの表現を支える保育者の審美性
12 表現演習 (ごっこ遊びと総合的な表現 企画・立案・指導案の作成)	12 活動の構想とグループ発表
13 表現演習 (ごっこ遊びと総合的な表現 計画に沿って実践する)	13 乳幼児教育の現代的課題と領域「表現」
14 表現演習 (ごっこ遊びと総合的な表現 反省・評価)	14 表現をめぐる保育者の役割
15 まとめ	15 まとめ
定期試験	定期試験
テキスト	特になし
参考文献	「幼稚園教育要領解説」(平成30年度)フレーベル館「保育所保育指針解説」(平成30年度)フレーベル館 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(平成30年度)フレーベル館 その他、授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】授業計画の詳細を把握し、下調べをするなど積極的に参加すること。(事前学習については0.5時間が目安となる) 【事後学修】 毎時間の振り返りをして理解を深めること。授業内容に応じて事後課題等が課される。(事後学習については0.5時間が目安となる)
成績評価の方法	コメントシート(20%)、提出物、授業への参加度(グループワーク・模擬保育など)(40%) 授業内小テスト・期末試験(40%)
その他・注意事項	授業に必要な道具や指定された材料は必ず持参すること。 資料、記録等を整理・保管するファイルなどを各自用意すること。

科目名	幼児教育方法論	担当教員	小川貴代子
実施学期	後期		
授業形態	講義	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼児教育で求められる「環境による教育」「遊びによる総合的な指導」及び「一人一人の発達の特성에応じた指導」について理解し、乳幼児期に望ましい幼児教育の方法に関する基礎理論を学ぶ。また家庭・地域・小学校との連携の在り方について考え、生活及び発達の連続性を踏まえた教育の内容を理解するとともに、教育メディアや情報機器の活用を通して、保育におけるその可能性と課題についても理解を深める。
授業の概要	保育の基本として「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に則り、幼児期にふさわしい教育方法の要点を論ずる。次に基本的な理論と実践的な理論の統合を図るために実践事例、ビデオ、資料等から、保育のイメージをつかむ。その上でさまざまな保育内容の指導・援助法について理解を深める。また幼児期の保育を進める上でコンピューター等の情報機器や視聴覚教材の活用法などについて体験を通して理解する。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 幼児期にふさわしい教育方法の基礎理論① (「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」にみる教育方法)
2	2 幼児期にふさわしい教育方法の基礎理論② (幼児の生活・遊びと保育)
3	3 子ども理解と教育方法(環境による教育の実際)グループワーク
4	4 子ども理解と教育方法(環境による教育の実際)発表
5	5 発達の特性に応じた指導方法
6	6 教育実践と教育方法① (様々な教育方法についての調べ学習・PC使用)
7	7 教育実践と教育方法② (様々な教育方法についての調べ学習・発表)
8	8 教育実践と教育方法③ (幼児教育・保育に活かす情報メディア・保育における記録とメディア)
9	9 教育実践と教育方法④(遊びを通した総合的指導)
10	10 教育実践と教育方法⑤(教材の意味・保育の計画)
11	11 教育方法と評価(保育の計画・実践・評価の実際)
12	12 保育形態と効果
13	13 幼児期の教育と小学校教育の連関
14	14 家庭や地域と連携した教育
15	15 幼児教育の現状と課題・まとめ 定期試験
テキスト	「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 授業中に適宜資料を配布する。
参考文献	「保育の計画と評価を学ぶ」加藤敏子・岡田耕一編者 萌文書林 「保育内容の指導法」谷村宏子 編著 ミネルヴァ書房
授業時間外における学習方法	【事前学修】 授業内容を踏まえ、事前に「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読んでおくこと。 【事後学修】 授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し学習すること。出された課題は提出期限を守ること。
成績評価の方法	定期試験(50%)、レポート・教材の提出(30%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	授業では聴くことだけでなく、グループワークを通して学生間の意見交換や考察し合う時間も大切な学びになるので、積極的な姿勢で授業に参加し、学びを深める。

科目名	教育相談論	担当教員	阿部 裕子(A・B)
実施学期	通年		犬塚 喜久男(C)
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	園における様々な保育・教育活動において。カウンセリングマインドに基づいた子どもへの向き合い方、および保護者の子育てへの支援のあり方についての具体的・実践的な力を身につける。子どもや保護者に対して真に人格尊重への精神を身につけ、日々の活動を通して確かな信頼を得て望ましい保育・教育活動を行うことを可能とする知識と感性、およびスキルを身につける。
授業の概要	子どもの健全な成長を支援するカウンセリングの理論と方法および保育・教育現場の今日的課題について事例を研究したり、グループ活動による相互学習をおこなう。さらに、ロール・プレイング、構成的グループエンカウンターその他の演習を通して保育者としての自己理解を深め、教育相談の力量と感性を養う。

【授業計画】	
前期 1「教育相談・カウンセリング」とはなにか(第1章) 2 子育ての教育相談(第1章)《ブラインド・ウォーキング》 3 園における教育相談の意義(第1章)《保護者の相談》 4 子どもの発達への援助Ⅰ(第2章)《ロールプレイング、ストローク》 5 子どもの発達への援助Ⅱ(第3章)《知能テスト》 6 子ども理解とは何か(第4章)《アセスメントとは何か》 7 子ども理解の方法(第4章)《あいさつゲーム》 8 「自己理解」とは何か(第4章)《描画テスト》 9 カウンセリングの理論(第5章)《面接》 10 カウンセリングの基本的な技法(第5章)《スクイグル法》 11 「カウンセリング・マインド」とは何か(第6章)《SCT,他》 12 保育者の成長(第6章)《ダブルバインド》 13 園における教育相談組織(第7章)《教育相談組織》 14 事例研究会の活用(第7章)《事例研究会の実際》 15 まとめ 定期試験	後期 1 登園拒否の理解と指導Ⅰ(第8章)《話を聴く》 2 登園拒否の理解と指導Ⅱ(第8章)《非言語的コミュニケーション》 3 社会性の発達Ⅰ(第9章)《構成的グループエンカウンター》 4 社会性の発達Ⅱ(第9章)《事例研究》 5 遊びの発達Ⅰ(第10章)《プレイセラピー》 6 遊びの発達Ⅱ(第10章)《ジグソーパズル、共同絵画》 7 発達障害の理解(第11章)《行動療法、作業療法》 8 子育て支援Ⅰ(第12章)《ピアサポート》 9 子育て支援Ⅱ(第12章)《支援プログラム、環境の調整》 10 保護者への支援Ⅰ(第13章)《エゴグラム》 11 保護者への支援Ⅱ(第13章)《親との面接》 12 地域社会、関係機関との連携(第14章)《ネットワークマップ》 13 保育者としての成長(第15章)《ストレス・チェック》 14 保育者のメンタルヘルス(第15章)《自律訓練法》 15 まとめ 定期試験
テキスト	「子育て・保育カウンセリングワークブック」清水勇・阿部裕子共著 学事出版 2018 幼稚園教育要領(平成29年告示) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示) 保育所保育指針(平成29年告示)
参考文献	発達心理学(改訂・保育士養成講座編集委員会)DSM-5精神疾患の分類と診断の手引き(日本精神神経学会) 自閉症だったわたしへ(ドナ・ウイリアムズ)発達障害の子どもたち(杉山登志郎)発達障害かもしれない(磯部潮) 困った親への対応(嶋崎政男)樹木テスト・人物画テスト(高橋雅春・高橋依子)不登校外来(三池輝久)＊詳細は授業で紹介する
授業時間外における学習方法	・サブノートによる復習とまとめ ・演習をふまえたレポートの作成と提出
成績評価の方法	・前期後期の定期考査結果(60%) ・演習のレポート(20%) ・授業最後の確認テスト(20%)
その他・注意事項	・教育相談の授業は自己発見・気づき等を通して感性を磨く授業です。授業への真摯かつ積極的な参加が必須です。 ・授業への出席を重視します。

科目名	教職実践演習	担当教員	齊藤 光一 相澤 千枝子
実施学期	後期		赤津 裕子 中村 香津美
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	1、教職課程の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通して、学生が身につけた資質能力が最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成され たかについて確認する。2、保育に関する必修科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、保育士としての知識、技能を習得したことを確認する。3、乳幼児の発達過程を理解し、年齢に応じた適切な指導法、保育内容についての指導力・幼児理解を高めるための講義、グループでの討論、ロールプレーを通して資質の向上を計る。4、保育に携わる人間としての資質向上のため、さらに、卒業後の職場への適応を図るための学習活動を展開する
授業の概要	1、教育実習(幼稚園)2か所、保育実習(保育所、福祉施設)3か所での実習経験を振りかえり、講義・グループ討論を行う。 2、幼児を援助するための技術・方法について、再度整理し、保育内容についての指導力・幼児理解を高めるための講義、グループでの討論、ロールプレーを通して資質の向上を図る 3、保育に携わる人間としての資質向上のため、さらに、卒業後の職場への適応を図るための学習活動を展開する。

【授業計画】	
後期	
1教職実践演習を学ぶにあたって	16認定こども園での観察・実習・補助活動を行う
2保育者に役割、職務について話し合う	17保育所と認定こども園での保育についてグループで話し合う
3子どもへの接し方、子どもへの責任について話し合う	18保育所と認定こども園での共通点と相違点について、グループでまとめて話し合う
4子どもへの接し方、子どもへの責任について ロールプレーイング	19保育内容の指導についてグループで話し合う(絵本・手遊び・製作等)
5職場での人間関係の作り方について話し合う	20保育内容の指導についてグループで話し合う
6職場での人間関係の作り方について話し合う ロールプレーイング	21指導案をグループごとに作成する
7保護者との人間関係の作り方について話し合う	22模擬授業(ロールプレー)
8保護者との人間関係の作り方について話し合う	23模擬授業(ロールプレー)
9幼稚園での観察・実習・補助活動を行う(実習協力園との連携)	24保育教材の作成計画を立てる
10幼稚園での観察・実習・補助活動を行う(実習協力園との連携)	25保育教材を作成する
11学級経営案を作成する	26保育教材を作成する
12学級経営案についてグループで発表し討論する	27保育教材の活用について発表する(グループごと)
13保育所での観察・実習・補助活動を行う	28保育教材の活用について発表する(グループごと)
14保育所での観察・実習・補助活動を行う	29保育者としてのあり方、資質について話し合い、発表する
15認定こども園での観察・実習・補助活動を行う	30まとめ 定期試験
テキスト	各授業毎、適宜レジュメ、参考資料を配布する
参考文献	
授業時間外における学習方法	教職課程の授業の補いとして、自己の課題を見極め自覚し、課題目標と期限を定めて、日々努力をする
成績評価の方法	各授業態度、取り組み姿勢、課題提出など
その他・注意事項	補助活動については、園の都合などで出席できない場合は、課題を提出する。

科目名	教育実習	担当教員	2年担任
実施学期	後期		
授業形態	実習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	幼稚園教育の実際を体験し、幼児の新進の発達と遊びを具体的に理解するとともに、幼稚園教育の課題を把握し、幼稚園教諭としての使命感を養う。幼稚園教育要領に定められた幼稚園の教育内容を実際に体験し、理解する。幼児と接し、活動や心身の発達状況等幼児理解を深める。幼児への場に応じた言葉かけなどの対応の仕方を学ぶ。幼稚園教諭の職務内容を理解し、理想の保育者像をもつことができる。
授業の概要	現場で経験を積むことにより、幼稚園の在り方や、保育者の在り方について学ぶ。授業で学んだ内容と現場での体験を関連づけて生かす。

【授業計画】	
前期	後期
	<ul style="list-style-type: none"> ○見学・観察実習 <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園の要覧などを通じて、実習園の教育方針を知る。 ・実習園の人的環境及び地域環境等の諸条件について知る。 ○参加・指導実習(部分) <ul style="list-style-type: none"> ・指導案を作成し、指導教師の指導を受けて実践する。 ・指導案と実際指導の関係を指導終了後、検討する。 ・疑問点や問題点について指導教師の指導を受ける。 ・反省点の指導・助言を記録し、次へ生かす。 ○指導実習(責任) <ul style="list-style-type: none"> ・学級を担任し、1日の教育を実践する。 ・登園から降園までの指導案の作成と教材・教具の準備を行う。 ・時間の配分、適正・円滑な教育活動、幼児の活動の調整等を行う。 ・幼児の個性、集団の特性等に注目して教育活動を行う。 ・教職員や保護者への対応等を学び、実践する。 ・教育実習日誌を整理し、指導教師に提出する。

テキスト	・「平成30年度 教育実習の手引き」竹早教育保育士養成所 ・DVD「教育実習生の日」
参考文献	・「実習ワーク」朋文書店 ・「実習日誌の書き方」朋文書店
授業時間外における学習方法	・日常の中で目にする子どもの様子を観察する。 ・絵本や紙芝居などの教材を探し、演じることができるよう練習する。 ・指導実習の教材を用意し、事前に完成させたり、実際に実行できるか確認しておく。(教材研究)
成績評価の方法	・実習園による評価結果に基づく
その他・注意事項	・欠席や遅刻、早退については補充を行う。ただし、3日以上欠席の場合は再実習となる。

科目名	保育実習指導 I (施設)	担当教員	大井 靖
実施学期	前期		2年担任
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	施設の役割・機能を理解し、実習意欲を高め、自己の実習課題を明確にする。
授業の概要	利用者の理解を深め、実態に応じた養護の在り方を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1実習のねらいと内容	1
2実習先の確認	2
3施設の役割・機能	3
4核施設の役割・機能	4
5利用者の理解	5
6養護の一日の流れ	6
7養護の知識・技能	7
8保育士の業務・倫理	8
9実習課題の設定	9
10実習の心得	10
11実習日誌の書き方	11
12実習指導案の書き方	12
13保育実習の振り返り・お礼状	13
14今後の自己課題	14
15まとめ	15

テキスト	「保育実習の手引き」竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習パーフェクトガイド」わかば社
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	期末テスト・授業態度等を総合的に評価
その他・注意事項	

科目名	保育実習 I (施設)	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設の生活に参加し、利用者への理解を深めるとともに、児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について学ぶ。
授業の概要	利用者の生活を理解し、養護の実際を体験する。そして、利用者の生活全般について、自立のための援助を行う。さらに、職員の役割分担や連携についても理解し、協力して自分の仕事をしていくことについても学ぶ。

【授業計画】	
前期 1 実習施設についての理解 2 養護の一日の流れの把握と参加 3 施設の機能の理解 4 利用者の観察と利用者との関わり 5 利用者の理解 6 援助計画の理解 7 生活の援助、養護の体験 8 養護技術の習得 9 職員間の役割分担とチームワークの理解 10 利用者のニーズと自立のための支援 11 部分実習指導案の作成と実施 12 施設の養護計画についての理解 13 職務の記録や連絡についての実際 14 家庭・地域との連携 15 まとめ	後期

テキスト	「保育所保育指針」、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば社出版
授業時間外における学習方法	実習教材の準備
成績評価の方法	実習態度や実習成果等を総合的に判断。実習先の評価(実習態度、実習内容、実習記録)を踏まえて。
その他・注意事項	実習課題を明確にする。

科目名	音楽表現	担当教員	赤津・長田・山川・阿方・片桐
実施学期	通年		須田・佐藤・仕入・鉄矢・白井
授業形態	演習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	一年で習得した基礎技能をふまえて、ピアノ演奏を通して子どもの音楽表現を豊かにするための知識や技能を習得し、保育者としての指導力を養う。
授業の概要	保育現場で生かせる実践的なピアノ演奏、及び弾き歌いの技術を身につけると同時に、実習、就職に向けて、レパートリーを増やす。

【授業計画】	
前期 1 読譜と楽曲研究 2 読譜と表現 3 子どもの歌の簡単な伴奏付け 4 コード奏による伴奏付け 5 コード奏による移調 6 実習に向けて準備①(マーチ) 7 実習に向けて準備②(生活の歌) 8 実践に必要な楽曲の演習①(行事の歌) 9 実践に必要な楽曲の演習②(季節の歌) 10 子どもの歌の伴奏 11 子どもの歌の弾き歌い 12 楽曲形式の研究 13 標題音楽の理解と表現 14 各自の進度に応じて選曲(表現豊かに暗譜で演奏) 15 まとめ 定期試験 (演奏と鑑賞)	後期 1 実習課題①(与えられた課題を数多く取り組む。) 2 実習課題②(仕上げと応用) 3 就職試験の準備①(ピアノ曲) 4 就職試験の準備②(子どもの歌) 5 特殊リズムの弾き歌い(遊び歌) 6 特殊音階の弾き歌い(わらべ歌) 7 転調を含む曲の弾き歌い 8 移調技術の習得 9 小学校の教材について(研究と演奏) 10 伴奏の応用 11 初見演奏 12 教育現場への準備①(レパートリーを拡大する) 13 教育現場への準備②(総合演習) 14 各自の進度に応じた楽曲を表現豊かに暗譜で演奏する 15 まとめ 定期試験 (演奏と鑑賞)
テキスト	「ブルグミュラー 25の練習曲」 全音楽譜出版 「こどもの歌100」 小林美実 監修、井戸和秀 編 チャイルド本社出版 「続こどものうた200」 小林美実 編 チャイルド本社出版
参考文献	授業中に適宜資料を配布する。
授業時間外における学習方法	【事前学修】 課題の楽曲の構成や音楽的要素を予習して読譜し、練習に主体的に取り組み、両手で演奏できるよう事前準備する。 【事後学修】 授業で指摘された練習課題を意識し、目標をもって計画的に毎日練習することを心がけ、課題達成を目指す。
成績評価の方法	前期・後期ともに最終授業においてまとめの実技試験を行う。 各自の進度に合わせた曲を一曲暗譜演奏、子どもの歌の弾き歌いを一曲演奏する。 試験での評点及び平常点を合わせて評価し、単位を認定する。
その他・注意事項	保育現場で生かせるように、技術力、及び表現力を養うための練習に主体的に取り組み、

科目名	造形表現	担当教員	中村 照三
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	図画工作でできなかった点をより多く経験する。 現場でどんな物が教材になるか考えながら行動をする。 造形に関する指導法の向上。 絵の指導の中で幼児の発達の道すじを知る。
授業の概要	作品づくりを通して幼児の適しているかも考えてつくる。 「造形のまとめ」づくりをする。 発達年齢に合わせた教材づくり、自分の作品や物を大切にす。

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション授業内容の説明と諸注意 2 うさぎのヘリコプター(3~4才児用) 吹き矢(5~6才児用) ぐるぐるへび 3 紙とんぼ、飛ぶしくみを考えて作る(5~6才児用) 4 竹とんぼ、刃物の持ち方・使い方を体験する 5 竹とんぼと水でっぽう(教師用) 6 水でっぽう、ナタやドリルの使い方を知る 7 牛乳パックと輪ゴムを使った工作、ボール 8 プリンカップでつくるコマ(5~6才児用) 9 トイレットペーパーの芯を使った工作 ストローでっぽう、ロケット 10 動くおもちゃを作る、シーソーゲーム たわらがえし(4~5才児用)ぶんぶんごま 11 動くおもちゃを作る、シーソーゲーム その他 12 動くおもちゃを作る、シーソーゲーム (5~6才児用) 13 泥粘土による造形活動 14 泥粘土による造形活動 15 前期の活動をスクラップブックに記録整理	後期 1 オリエンテーション手づくり人形づくり1 スポンジ人形 2 手づくり人形づくり2 3 手づくり人形づくり3 (5~6才児用) 4 ボール紙を使った工作、ぶんぶんごま(3才児用) 5 傘のふくろのロケット (5~6才児用) 6 皿まわしをつくる・お皿のカスタネット 7 色々な形のけん玉づくり 8 空気力で紙コップをとばそう 9 幼稚園や保育園で役立つポスターづくり 10 幼稚園や保育園で役立つポスターづくり 11 ポップアップカードを作ろう 12 年中行事又は現場で使うカードづくり 13 ぱくぱくカード、何でもバッグ 14 1年間のまとめのスクラップブックの提出 15 1年間の作品と資料のまとめ 最終チェックの日

テキスト	テキスト「図画工作」と自作プリント配布
参考文献	幼児の発達と美術教育の本年中行事・手作り工作の本 本年中行事・手作り工作の本 図書館等で見て自分に適した本を選ぶ
授業時間外における学習方法	【事前学修】前の週に次に用意するものを確認準備する。 【事後学修】返却された立体作品は写真を取り、プリントもスクラップブックに貼る。
成績評価の方法	作品の独創性の面でどうか、創意工夫がなされているか、熱心に取り組まれているか。 提出日は守られているか。(誠実さ)
その他・注意事項	作った作品や道具を学校の公のスペースに置きっぱなしにしない。忘れ物をしない。 すみやかに家に持ち帰る。

科目名	身体表現	担当教員	佐藤 廣子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろなリズムの合わせて動いたり、そのものになりきったりすることができる。 ・グループで協力して、テーマからストーリーを展開し、動くことができる。 ・幼児のリズム体操の創作ができる。 ・幼児に表現あそびのきっかけを提供することができる。
授業の概要	<p>幼児の健やかな成長のために用事がリズムカルな曲に合わせて身体を動かしたり、感情や体験したことを全身で表現したりするための指導法を学ぶ</p> <p>さらに、子ども一人ひとりが生涯にわたってダンスを自発的に楽しむことができるよう、リズムあそびや表現あそびの楽しさを学生自身が体験するとともに、支援の手立てを考える。</p>

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション～リズムあそび～ 学生自身のボディメンテナンス、体への気づき、姿勢 2 手あそび・指あそび・歌あそび～からだあそび～(1) 3 手あそび・指あそび・歌あそび～からだあそび～(2) 4 いろいろな曲でリズムあそび (1人で、2人で) 5 いろいろな曲でリズムあそび (1人で、2人で、グループで) 6 いろいろな曲でリズムあそび (1人で自由に、2人で仲良く、グループで感じて) 7 動きあそび～ハイタッチゲーム～ 8 動きでコミュニケーション～相手の動きに合わせて～ (ミラーモーション、ボディパーカッション) 9 リズムあそび+表現あそび(変身) (じゃんけん遊びから表現へ) 10 幼児のフォークダンス 11 いろいろな幼児のリズム体操 12 いろいろな幼児のリズム体操 13 幼児のリズム体操づくり (オリエンテーション、グループづくり、曲決め) 14 幼児のリズム体操づくり (中間発表:全員で体験) 15 まとめ(作品の発表) 定期試験	後期 1 即興的表現あそび 体をほぐそう! 体の目覚め～心が動き、体が動き、気持ちが動きだす～ 2 親子ダンス 簡単な動きで踊る楽しさを味わう(動きの一部を表現) 3 コミュニケーションダンス こんな形できるかな!(いろいろなおにぎり) 4 コミュニケーションダンス(発展) こんなことできるかな!(コック、オリンピック選手、花火) 5 コミュニケーションダンス(発展) イメージを膨らませ創作とリズムの掛け合い 6 ストーリーのある表現あそび (模倣—新聞紙を使って) 7 ストーリーのある表現あそび (模倣—ゴムひもを使って) 8 ストーリーのある表現あそび (模倣—お風呂) 9 ストーリーのある表現あそび (模倣—風船を使って) 10 ストーリーのある表現あそび (模倣—ピクニック) 11 グループづくり、イメージづくり、脚本づくり 12 作品づくり(ストーリーの展開および動きづくり) 13 作品づくり(ストーリーの展開および動きづくり) 14 作品発表(中間) 相互による評価 15 まとめ(作品の発表) 定期試験

テキスト	適宜資料配布
参考文献	「幼稚園教育要領」「保育所保育方針」「認定こども園教育・保育要領」 授業のなかで適宜資料配布。幅広いジャンルの音楽使用。
授業時間外における学習方法	【事前学修】振り返り、自分の考えをまとめておく。グループで話し合いまとめておく。 【事後学修】授業の内容を踏まえテキストを読み直し、学習内容の定着をはかる。
成績評価の方法	授業における意欲・態度・試験を総合的に評価する。
その他・注意事項	身体各部を十分に動かすことができるよう、伸縮性のある服装で授業を受けること。

科目名	臨床心理学A	担当教員	高杉 葉子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	前期:臨床心理学の基本的理論とワークを通して、自己と他者への理解を深める。 後期:臨床心理学の基本的理論とワークを通して、幼児や養育者といった、保育現場における他者への理解を深める。		
授業の概要	自分を見つめることや人とコミュニケーションをとることは、子どもと接するうえでも、人として生活を送るうえでも、大切な作業である。 この授業では、自分の心、人との関係性、人間理解について、臨床心理学の理論とワークを行いながら深めるとともに、自己や他者を理解することの大切さと難しさを学ぶことを目指していく。		
定期試験	前期	後期	
	1 臨床心理学とは・授業の目的と進め方	1 乳幼児の発達(1)概要	
	2 心の生涯発達について	2 乳幼児の発達(2)言葉・情緒・認知	
	3 青年期のリスク・マネジメント	3 乳幼児の発達(3)自我・社会性	
	4 社会的存在の自分	4 子どもの遊びと悩み	
	5 印象形成と対人魅力	5 「気になる子」と情緒障害	
	6 コミュニケーション(1)非言語と言語	6 発達障害	
	7 臨床心理学理論(1)来談者中心療法	7 臨床心理学理論(3)行動療法	
	8 コミュニケーション(2)アサーション	8 対象喪失	
	9 自他を知る(1)コンセンサス	9 家族・集団の問題(1)育児不安	
	10 臨床心理学理論(2)精神分析	10 臨床心理学理論(4)認知行動療法	
	11 自分を知る(1)エゴグラム	11 家族・集団の問題(2)虐待・いじめ	
	12 自分を知る(2)ストローク	12 臨床心理学理論(5)コミュニティ心理学	
	13 自他を知る(2)価値観	13 保育士の役割と生きがい・やりがい	
	14 自他を知る(3)他者との連携・他者からの支え	14 ストレス・マネジメント	
	15 振り返りとまとめ	15 振り返りとまとめ	
	定期試験	定期試験	
テキスト	通年:「よくわかる臨床心理学 改訂新版」 下山晴彦 編 ミネルヴァ書房		
参考文献	通年:授業時に資料プリントを配布する。 後期:①「よく分かる発達心理学 第2版」 無藤隆・岡本祐子・大坪治彦 編 ミネルヴァ書房 ②「保育の心理学ワークブック」 本郷一夫 編著 建帛社		
授業時間外における学習方法	【事前学修】テキストのうち授業内容に該当する部分を読み、自分なりの考えをまとめておくこと。 【事後学修】授業の内容を踏まえ、テキストを読み直し、学習内容の定着をはかること。		
成績評価の方法	授業での意欲・態度(40%)、試験(60%)		
その他・注意事項	人の心には正解・不正解というものはないので、授業中も疑問点があったら積極的に質問してもらいたい。		

科目名	臨床心理学B	担当教員	野村 佳申
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	臨床心理学の基礎的な知識の獲得と、その具体的な応用方法を理解することで、以下の三点を身につけることを目的とする。①自己への理解を深める、②保育現場で遭遇する子どもや保護者、その他多様な人物を理解する視点を持つ、③心理の専門家との連携を効果的に行うための視点を獲得する。
授業の概要	臨床心理学の様々な基礎理論を理解し、保育現場で遭遇すると想定される具体的な場面への適用をワークやグループでの発表を通して学ぶ。

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション 臨床心理学について・授業のすすめ方 2 臨床心理学理論1 カウンセリング・人間性心理学 3 臨床心理学理論2 精神分析理論 精神分析的発達理論 4 愛着の形成と発達 5 臨床心理学理論3-1 認知行動理論基礎 6 臨床心理学理論3-2 認知行動理論応用 7 臨床心理学理論4 家族と心理 8 表現と心 9 心理査定概論 10 自己を理解する 11 円滑なコミュニケーションとは 12 精神疾患総論 13 乳幼児の見かた 臨床心理学的観点から 14 臨床心理士との連携を考える 15 まとめ 定期試験	後期
テキスト	プリントを配布する。
参考文献	適宜、授業において紹介していく
授業時間外における学習方法	授業において紹介した参考文献を読み理解を深める。また、臨床心理学は生活上の人の心を広く対象とする領域である。日常生活において、授業で学んだ知識を用いて自身や他者を理解することで、実践知としての学びを深めてほしい。
成績評価の方法	授業における意欲・関心・態度(グループワーク含む)60% 試験40%
その他・注意事項	単なる知識の獲得に終始せず、臨床心理学に通底する他者のこころや行動を理解しようとする姿勢である「カウンセリングマインド」を感じ取り、身につけてほしい。

科目名	臨床心理学B	担当教員	雨宮 裕子
実施学期	後期		
授業形態	演習	単位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	子どもの気持ちを理解しながら、その成長を育てていくことは、幼児教育に携わる保育者として大切な基本姿勢である。授業では、人間理解の手がかりとなる臨床心理学の基礎的な理論や具体的な臨床事例を学ぶことにより、「人」を理解する考え方を得ることをねらいとし、以下の3つを到達目標とする。①人間理解に対して考える姿勢を養う。②自己理解について深める。③グループ形式などで共に学びながら、他者との相互交流により他者理解の力を養う。
授業の概要	臨床心理学者の理論を広く紹介しながら、具体的な臨床事例についても取り上げ、自己理解や他者理解を深める体験型のワークやグループ形式での交流型の学習も行う。臨床心理学の基本姿勢である「相手のことと向き合い、かかわりのなかでこころを育てていく」ことを学びながら、保育者として必要な自己をみつめる作業、他者を理解し、支援するあり方についても深めてゆく。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 臨床心理学と自己理解
2	2 発達課題とライフサイクル(体験型ワークをとおして)
3	3 臨床心理学的援助Ⅰ(カウンセリングとは・来談者中心療法)
4	4 臨床心理学的援助Ⅱ(精神分析・ユングの分析心理学)
5	5 臨床心理学的援助Ⅲ(遊戯療法・箱庭療法)
6	6 こころの病と健康Ⅰ(精神疾患と基礎知識)
7	7 こころの病と健康Ⅱ(事例をとおして)
8	8 こころの病と健康Ⅲ(メンタルヘルスを考える) ー交流型の学習をとおして
9	9 思春期・青年期の心理療法(事例をとおして)
10	10 発達障害を抱えた子どもたちへの理解とサポートⅠ・自閉症スペクトラム
11	11 発達障害を抱えた子どもたちへの理解とサポートⅡ・ADHD・学習障害
12	12 児童虐待についての理解と予防(事例をとおして)
13	13 保育現場における保護者支援・保育者支援の実際
14	14 死の臨床とデス・エディケーションを考える (体験型ワークをとおして)
15	15 まとめ 定期試験
テキスト	毎回、講師作成のプリントを使用。ファイルを1冊用意し、配布されたプリント、資料は各自で保管すること。
参考文献	「ADHDのおともだち」内山登紀夫編 ミネルヴァ書房 「発達障害の心理臨床」田中千穂子編 有斐閣アルマ 『「さようならって」いわせて』ジム&ボウルデン著 きたやまあきお訳 大修館書店 「わすれられないおくりもの」スーザン・パレエさく・え 評論社 参考図書、資料については、授業の中で適宜紹介する。
授業時間外における学習方法	授業で学んだ臨床心理学的な視点で自己理解・他者理解について考える機会をもってほしい。
成績評価の方法	授業内でのレポート、演習への参加態度・発表、授業態度、試験を総合的に評価する。
その他・注意事項	ワークやグループ形式での学習場面では、積極的に参加し、発言して欲しい。

科目名	発達心理学Ⅱ	担当教員	安西 豪行
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	1年次で学んだ発達心理学Ⅰや教育心理学をさらに発展させ、保育およびその関連事項について、それをどのように捉え、どのように対応することが求められているのかを理解する。将来自分が保育者になり、類似の問題に直面したとき、適切に対処することの基礎を学ぶ。
授業の概要	各時間に指定されたレポーターの報告をもとに受講生の演習により、授業を進める。保育に関連する題材が提示されるので、それについて各自の考えを発表する。テキストにはそれに対する解説が示されているが、それは一つの参考として自身の独自の解釈を歓迎する。保育の場では多様な姿勢が求められているので、その点も考慮する。

【授業計画】	
前期 1 授業内容の概略 2 生涯発達とライフサイクル、「妊娠・胎児期」 3 「原始反射」、「視覚の発達」 4 「乳児の能力」、「感情の発達」 5 「顔の知覚」、「模倣」 6 「ハンドリガード」、「クレーイングから喃語へ」 7 「対象の永続性」、「発達の方向性」 8 「共同注意」、「歩行の発達」 9 「手先の運動の発達」、「社会的参照」 10 「人見知り」、「はじめてのことば」 11 「愛着という絆」、「同化と調節」 12 「話しことばの発達」、「発達の連続性と速度」 13 「鏡に映った自分の理解」、「第一反抗期」 14 前期のまとめ 15 後期に向けて 定期試験	後期 1 「遊びの社会的側面」、「象徴機能」 2 「遊びの機能的側面」、「自己中心性」 3 「幼児の知覚の特徴」、「前操作期と保存の理解」 4 「気質」、「内言と外言」 5 「質問期と語彙爆発」、「心の理論」 6 「一次のことばと二次のことば」、「ジェンダー」 7 「最近接発達領域」、「認知機能の発達」 8 「乳幼児へのメディアの影響」、「偏見」 9 「ピグマリオン効果」、「三歳児神話の重み」 10 「環境移行」、「ADHD」 11 「自閉症」、「知的な障がい」 12 「ギャングエイジ」、「第二次性徴」 13 「反抗期と心理的離乳」、「幼児期健忘」 14 「アイデンティティ」、後期のまとめ 15 全体的まとめ 定期試験

テキスト	発達心理学で読み解く保育エピソード 若尾良徳・岡部康成 北樹出版 2019年版
参考文献	保育所保育指針解説、幼稚園教育要領解説
授業時間外における学習方法	毎時間設定されたテーマについて、受講者各自で調べ、授業に臨む。
成績評価の方法	定期試験・毎時間の内容理解
その他・注意事項	各時間に指定されたレポーターの報告をもとに受講生の演習により、授業を進める。

科目名	児童文化A	担当教員	小川 貴代子
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	保育における遊びの位置づけや、子どもを取り巻く遊びの環境と子ども観の変遷について学び、児童文化の意義や価値・重要性を理解する。保育者として保育の中で、これまで受け継がれてきた児童文化を子どもに伝える方法を体験的に学び、児童文化の担い手となる自覚をもつ。
授業の概要	講義、演習、体験、製作などを通して、児童文化財の特性を理解する。乳幼児期の発達を踏まえながら、保育の中で伝承遊びや児童文化財などをどのように活用し、伝えていくのか実践しながら理解を深めていく。子どもの遊びやイメージを豊かにしながら教材づくりを行い、感性を養う環境構成や保育の展開を学ぶ。

【授業計画】	
前期	後期
1 オリエンテーション・児童文化とは	1
2 子どもの遊びの変化(遊びとは何か・児童文化の歴史)	2
3 保育における児童文化 (子どもの発達と児童文化・伝統おもちゃと流行おもちゃ)	3
4 保育における児童文化財①(紙芝居の演じ方)	4
5 保育における児童文化財②(紙芝居を演じる)	5
6 伝承遊びとは①(伝承遊びの種類と魅力)	6
7 伝承遊びとは②(伝承遊びの実践)	7
8 保育における児童文化財① (パネルシアター・ペープサート・エプロンシアターとは)	8
9 保育における児童文化財② (シアタースタイルの児童文化財の製作)	9
10 保育における児童文化財③ (シアタースタイルの児童文化財の製作)	10
11 わらべうた	11
12 幼稚園・保育園でのお話し会のためのプログラムの企画・立案 (おはなし・紙芝居・シアタースタイルの児童文化財等)	12
13 幼稚園・保育園でのお話し会のためのプログラムの発表① (おはなし・紙芝居・シアタースタイルの児童文化財)	13
14 幼稚園・保育園でのお話し会のためのプログラムの発表② (おはなし・紙芝居・シアタースタイルの児童文化財)	14
15 まとめ	15
定期試験	
テキスト	特になし 授業中に、プリントを配布。ファイルを1冊用意し、配布されたプリントや資料は各自で保管すること。
参考文献	「演習 児童文化 保育内容としての実践と展開」小川清実 編者 (株)萌文書林 「新版 児童文化」皆川美恵子 武田京子 編著 ななみ書房
授業時間外における学習方法	【事前学修】授業内容を踏まえ、児童文化に触れる機会を多くもつようにし、関心を深めること。 【事後学修】授業内容を踏まえ、配布資料を読み直し学習すること。出された課題は提出期限を守ること。
成績評価の方法	定期試験(40%)、レポート・教材の提出(40%)、授業態度・発表(20%)
その他・注意事項	児童文化財の製作に必要な道具・材料は必ず各自で用意すること。 教材の提出期限は厳守。発表する際は、練習を重ね責任をもって行うこと。授業態度は特に厳しく対処する。

科目名	児童文化A	担当教員	生田 美秋
実施学期	後期		
授業形態	演習	単位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	授業は絵本と遊びを中心に、シラバスに記したテーマについて行います。これからの時代に求められる質の高い児童文化の知識と技能の習得を目標に、生徒一人一人がそれを確実に身に付けることができるよう指導を行います。
授業の概要	授業は読み合いの実演、レクチャー、ワークショップ、課題報告によって行います。読み合いの実演は指定した古典的な絵本の読み合いを実演し、子どもに人気のある理由を説明していただきます。レクチャーとワークショップはシラバスに即して行います。課題報告は3～4人のグループに指定したテーマについて実演と報告をしていただきます。課題提出「子どもの発達と絵本」「絵本の創作」によって理解力を判定し、個別に指導します。卒業制作として「絵本通信—発達に対応した絵本プログラム12カ月」を制作します。

【授業計画】	
前期	後期
1	1 ガイダンス、絵本の読み方、子どもと遊び
2	2 保育と絵本、『子どもへのまなざし』(1) 課題「子どもの発達と絵本」
3	3 子どもの発達と絵本0、1歳児、『子どもへのまなざし』(2)
4	4 子どもの発達と絵本2、3歳児、『絵本から広がる遊びの世界-0歳児の遊び』、課題「子どもの発達と絵本」の提出
5	5 子どもの発達と絵本4、5歳児、『絵本から広がる遊びの世界-1、2歳児の遊び』、『絵本通信』の制作(1)
6	6 あかちゃん絵本、『絵本から広がる遊びの世界-3歳児の遊び』、『絵本通信』の制作(2)
7	7 物語絵本、『絵本から広がる遊びの世界-4、5歳児の遊び』、『絵本通信』の制作(3)
8	8 昔話絵本、年齢別遊びのポイント、『絵本通信』の制作(4)
9	9 ファンタジー絵本、年齢別遊びのポイント、『絵本通信』の作成(5)完成
10	10 科学絵本、園生活と遊び、『絵本の創作』(1)
11	11 絵本の選書、園行事と遊び、『絵本の創作』(2)
12	12 絵本の選書、室内遊び1～2歳、『絵本の創作』(3)完成
13	13 絵本の基本原則、室内遊び3～4歳、授業のまとめ(1)
14	14 絵本を使った遊び、屋外遊び、授業のまとめ(2)
15	15 まとめ 定期試験
テキスト	『絵を読み解く 絵本入門』生田美秋ほか著(ミネルヴァ書房)
参考文献	シラバスに即してレジュメを配布します。参考文献はその都度紹介します。
授業時間外における学習方法	生徒が自ら主体的に学び、考え、表現することを重視し、読み語りの実演、グループでの課題報告について予習をしてきていただきます。課題提出は、生徒の実力を判断する材料として、適切な指導に活かしてまいります。
成績評価の方法	試験のほか、実演、課題報告、課題提出、授業への意欲・態度を加味し、総合的に評価します。
その他・注意事項	イ)授業中の私語、居眠りなどの態度には厳しく対処します。 ロ)読み語りの実演のほか、素話など児童文化の実技能力の測定を行います。

科目名	児童文化B	担当教員	永田 桂子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	児童文化とは児童の情操にかかわる領域のすべてを指す。数多い児童文化財のなかから「絵本」「紙芝居」「お話」「おもちゃ」を取り上げ、それぞれの選択眼を学ばせる。あわせて、児童文化活動として、子どもへの伝達技術を身につけさせる。
授業の概要	前期は、「絵本」「紙芝居」「お話」について、①講義にて特質を学ぶ②グループワークにて実演の練習③全員を前に模擬発表、の順に行う。 後期は、「おもちゃ」について、①講義にて特質を学ぶ②市場調査や遊びの画像を観る③「おもちゃ」を持参して評価を試みる、の順に行う。

【授業計画】	
前期 1 児童文化の意味と意義 2 絵本(1)特質 (2)発音・発声練習 (3)グループ編成 3 絵本(4)絵本の書誌を学ぶ (5)持ち方・めくり方 4 絵本(5)グループで絵本を読む練習 (6)代表者を決める 5 絵本(7)代表者による発表と、全員による評価 6 絵本(8)絵本選びのポイント 7 絵本(9)代表者による発表と、全員による評価 8 紙芝居(1)特質 (2)上演の仕方 9 紙芝居(3)グループで上演の練習 (4)代表者を決める 10 紙芝居(5)代表者による発表と、全員による評価 11 お話 (1)特質 (2)実演の仕方 12 お話 (3)グループで実演の練習 (4)代表者を決める 13 お話 (5)代表者による発表と、全員による評価 14 「お話」の延長として、子どもへの自己紹介の台本作り 15 まとめ(授業で行った活動から一つを選んで論評) 定期試験	後期 1 おもちゃ・玩具・遊具・教具の名称と概念 2 (1)伝統玩具と現代玩具 宿題:おもちゃの市場ミニ調査 3 (2)教育玩具について ①フレーベルの恩物 4 ②モンテッソーリの教具 ③ニキータンの積み木及び用具 5 (3)現代玩具の特徴(市場ミニ調査結果を発表しあう) 6 おもちゃの働き (1)機能 (2)教育性 7 おもちゃの選択条件 8 安全性 (1)おもちゃの事故 (2)生活のなかでの事故 9 (3)事故に対する考え方 (4)安全対策 10 乳幼児の発達とおもちゃ(1)0～2歳 11 (2)3歳～ 12 おもちゃの選択に対する配慮 13 遊びに対する配慮 14 おもちゃを持参して評価ポイントを学ぶ 15 まとめ(おもちゃを論評) 定期試験
テキスト	『よい「絵本」とはどんなもの?』(第3刷)永田桂子著 チャイルド本社 『よい「おもちゃ」とはどんなもの?』(第2刷)永田桂子著 チャイルド本社
参考文献	『ことばと表現力を育む児童文化』川勝泰介・浅岡靖央・生駒幸子編著 萌文書林
授業時間外における学習方法	行き交う親子や子どもの様子、子どもの居場所、子ども商品を観察する。 子どもを取り巻く環境に目配りをして、多くの気づきを得る。 特に絵本や紙芝居、お話、おもちゃの情報は広く集める。
成績評価の方法	前期は、自らの発表に対する感想文(40%)と最後のまとめの論評(60%)にて評価。 後期は、途中課題への回答(50%)と最後のまとめの論評(50%)にて評価。
その他・注意事項	回と内容は、授業の流れの中で若干移動することもある。

科目名	保育教材研究	担当教員	相澤 千枝子
実施学期	通年		
授業形態	演習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<p>保育教材は乳幼児が活動し、より発展・展開するものとしてとらえる。授業の演習や保育実習の体験をとおして、保育実践に役立つ教材の研究をするとともに乳幼児の成長発達に即した活動の保育教材を考案し製作する。</p> <p>1、保育教材の研究の仕方 2、保育のねらいや活動にふさわしい教材を選択する力を身に付ける 3、保育教材を工夫したり、さらに研究する力をつける</p>
授業の概要	<p>保育教材は保育内容の具体化されたものである。保育教材の研究や準備は、保育計画の中心課題であるといえる。何気なく見過ごしている様々な事象に興味、関心を持ち教材研究を行い教材として利用できる力をつけるように実践する。作成した教材は実際に使い模擬授業を行い相互評価をする。操作・表現・指導方法など技術を身に付ける。</p>

【授業計画】	
前期 1 オリエンテーション「保育教材の研究とは」 自己紹介カードの特性と操作の仕方・作成 2 自己紹介カード作成 3 自己紹介カード仕上げ・実演する 4 ペーパーサートの特性と特徴、作り方・演じ方、ペーパーサート作成 5 ペーパーサート作成 6 ペーパーサート作成、仕上げ 模擬授業 7 パネルシアターの特性と特徴、作り方、演じ方パネルシアター作成 8 パネルシアター作成 9 パネルシアター作成 10 パネルシアター 模擬授業 11 エプロンシアターの特性と特徴 作り方、演じ方 作成準備 12 エプロンシアター作成 13 エプロンシアター作成 14 エプロンシアターの作成 15 エプロンシアター模擬授業 まとめ スクラップブックの提出 定期試験	後期 1 オリエンテーション(後期授業準備について) グローブ人形の特性と特徴、演じ方 グローブ人形作成 2 グローブ人形作成 3 グローブ人形作成 4 グローブ人形仕上げ 提出 5 ギニョール人形の特性と特徴、作り方演じ方 ギニョール人形作成 6 ギニョール人形作成 7 ギニョール人形作成 8 ギニョール人形仕上げ 提出 9 不思議な時計の作成 10 不思議な時計の仕上げ 提出 11 グローブ人形、ギニョール人形、模擬授業 12 スクラップブック記録 13 卒業製作準備 14 卒業製作 15 卒業製作 まとめ 定期試験
テキスト	
参考文献	参考図書、教材、必要な資料については授業の中で適宜紹介する。
授業時間外における学習方法	丁寧さと自己のセンスが問われるので、児童文化の分野、環境の視野をひろげること。
成績評価の方法	授業への参加姿勢、手づくり教材の各自の工夫、模擬授業の内容、記録物、提出期限厳守、総合的に評価する。
その他・注意事項	教材の準備を必ずしてくること。

科目名	保育実習指導Ⅱ	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	実習は授業で学んだすべての教科の応用であり、それらの学習が実習の場の中で実証されていきます。そして自分自身の不十分ところが明確になり、次の課題が見えてきます。保育実習Ⅰを踏まえ、それぞれが課題に対する目的意識をもって臨み、未修得の分野も自ら計画をし積極的に進めていく。1、乳幼児の発達過程を理解する。2、実践の場で活かせるように指導案を作成、教材の準備などができるようにする。3、実習日誌の記録の取り方
授業の概要	1、保育実習Ⅱ（責任実習）の実践を行うための指導案を作成し実践に向けての指導技術と援助のしかたを探る。 2、模擬演習を通して皆で学びあい、実践の質を高める。 3、実習終了後の今後の課題を確認する。

【授業計画】	
前期	後期
1 責任実習について	1
2 オリエンテーションについて(事前・事後)	2
3 保育の流れに沿うプログラムを考える (月案・週案・日案、主活動)	3
4 導入について、子どもへの援助のしかた、指導技術	4
5 日案作成(主活動についての再案一晴天・雨天時)	5
6 活動の進め方の実践演習	6
7 活動の進め方の実践演習	7
8 さまざまな子どもたちのかかわりと保育形態	8
9 実習日誌の書き方	9
10 子どもの発達について	10
11 実習事前課題について	11
12 実習の振り返りまとめ・お礼状	12
13 実習事後課題について	13
14 子育て支援と保育のキーワード	14
15 こども観・保育観	15

テキスト	「保育所保育指針」「保育実習の手引き」
参考文献	適宜必要に応じて資料など配布する
授業時間外における学習方法	学んだ成長発達段階を家庭で復習するように課題を出したり、小テストの予告をする。 実習指導の中で各自責任実習の内容を事前に準備し全体や小グループで発表が出来るようにする。
成績評価の方法	学習態度、課題の提出物により、総合的に評価する
その他・注意事項	規程以上の欠席者は、保育実習への参加はできない。

科目名	保育実習Ⅱ	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所の保育を実践し、保育に関する全般的な技術を習得する。 ・保育所で働くさまざまな職種の仕事内容や役割、チームワークを理解する。 ・家庭が置かれている実態に触れ、保護者とコミュニケーションを図り、子育てを支援することへの理解を深める。 ・保育全般の理解と専門職としてふさわしい人間性について学ぶ。
授業の概要	保育実習Ⅰの経験を踏まえ、保育士として必要な資質・能力・技術を習得する。責任実習をし、集団指導の具体的な指導、援助の方法を経験する。

【授業計画】	
前期 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15	後期 ●責任実習 ◎保育実習Ⅰの内容を基本として実践に挑む。 ◎デイリープログラム(日課表)に基づく保育所生活を体験しながら、日課の意味と内容について、具体的に理解を深める。 ◎保育全般に参加し、保育技術を習得する。 ・配属された年齢やクラスの特徴を把握し、さまざまな実践場面で、個別指導と集団指導の具体的な指導、援助の方法を経験する。 ・活動の進め方、教材や用具、遊具の活用の仕方、子どもへの援助や助言の仕方など、指導技術の基礎を身に付ける。 ◎指導計画を理解し立案、実践する。 ・実習園の保育課程や指導計画(年間・月・週)の全体的体系を理解する。 ・配属クラスの計画立案の趣旨を保育の実践を踏まえて理解する。 ・配属クラスの担当者と相談しながら子どもの状況を把握した上で、日案を立案し実践する。 ◎保育士としての資質や態度を習得する。 ・保育者の姿勢を正しくとらえ、温かさ、明るさ、包容力など専門職としてふさわしい人間性について学ぶ。 ・職業人としての規律、礼儀などについて自覚的に学ぶ。 ◎チームワークについて ・看護師、栄養士、調理師、非常勤保育士、用務員などさまざまな職種との役割分担や協力の姿勢について学ぶ。 ・クラス担任同士の役割分担や協力の姿勢について学ぶ。 ◎配属されたクラスの保護者に対する支援の様子を担当保育士の具体的な対応を通して学ぶ。 ◎保育実習日誌に実践した内容を整理して記録し、担当者に提出する。 *地域子育て支援事業に触れる機会があれば経験させていただく。
テキスト	保育実習の手引き
参考文献	
授業時間外における学習方法	責任実習の計画を立てる。指導案の作成、教材の準備などの過程の中で、自分の不足なところや苦手なことを努力する
成績評価の方法	実習園による評価結果に基づく
その他・注意事項	欠席者には、補充実習を行う。ただし、3日以上欠席は再自習になる。

科目名	保育実習指導Ⅲ	担当教員	大井 靖
実施学期	前期	実務経験	○
授業形態	演習	単 位	1単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設等の役割や機能を理解し、養護の知識・技能を学ぶ。 質の高い生活を目指して、ニーズに応じた支援ができるように、学びを深める。
授業の概要	利用者の実態を理解・把握し、ニーズに応じた支援をする。個別の支援計画を作成・活用した支援についても学ぶ。 そして、施設の役割・機能について理解し、保育士の業務内容や職業倫理について理解を深める。

【授業計画】	
前期	後期
1 施設実習のねらい・意義	1
2 施設実習の内容・実習日誌	2
3 施設の役割・機能	3
4 利用者の実態・生活・個性	4
5 実態に応じた支援	5
6 養護の一日の流れ、利用者とのコミュニケーション	6
7 養護の知識・技能	7
8 個別の支援計画	8
9 保育士の業務・倫理	9
10 ニーズに応じた質の高い支援	10
11 実習課題	11
12 責任実習指導案	12
13 地域との連携	13
14 今後の課題、自己課題の明確化	14
15 まとめ	15
テキスト	「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば出版
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	期末テスト、授業態度等を総合的に評価
その他・注意事項	実習課題を明確にする

科目名	保育実習Ⅲ	担当教員	2年担任
実施学期	前期		
授業形態	実習	単 位	2単位

授業のテーマ及び到達目標	児童福祉施設等の養護を実践し、保育士として必要な資質・能力・技能を習得する。利用者の実態を理解し、質の高い生活を目指して、ニーズに応じた支援を行う。そして、保育士の業務内容や職業倫理について具体的に理解する。
授業の概要	施設の役割や機能について、実践を通して理解を深める。利用者の理解を基に、支援のための知識・技術・判断力を養う。職員間の連携・協力について学び、利用者の思いに寄り添い、一人一人のニーズに対応した適切な支援を行う。

【授業計画】	
前期	後期
1 利用者の生活の理解	1
2 利用者の個性や生活の背景の理解	2
3 施設の役割や機能や使命についての理解	3
4 利用者一人一人に応じた支援	4
5 養護技術の習得	5
6 施設の養護計画の理解	6
7 質の高い生活を目指した自立支援	7
8 保育士の業務内容と職業倫理	8
9 職員間の連携・協力と連絡・引継ぎ	9
10 利用者とのコミュニケーションと信頼関係	10
11 責任実習指導案の作成と実施	11
12 保育士の資質・能力・技術	12
13 地域社会の理解と連携	13
14 自己課題の明確化	14
15 まとめ	15
テキスト	「保育所保育指針」、「認定こども園教育・保育要領」 「保育実習の手引き」 竹早教員保育士養成所
参考文献	「施設実習 パーフェクトガイド」 守巧、小櫃智子、二宮祐子、佐藤恵著 わかば出版
授業時間外における学習方法	実習教材の作成
成績評価の方法	実習態度や実習成果等を総合的に判断。実習先の評価(実習態度、実習内容、実習記録)を踏まえて。
その他・注意事項	実習課題を明確にする。